

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

「移民の継承語とエスニックアイデンティティに関する社会言語学的研究」（2021 年度第 2 回・通算第 2 回研究会）

2021 年度第 2 回研究会（通算第 2 回目）

日時：2021 年 9 月 2 日（木）9:00–12:30

場所：Zoom によるオンライン開催

主催：基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」

報告者：安達真弓（AA 研）

会の始めに、代表者である安達から「質的調査の方法論についての情報共有を行う」という第 2 回研究会の位置づけについての説明があった。その後、3 件の研究報告と討論が行われた。以下に各報告の要旨と、討論の内容をまとめる。

1. 櫻間瑞希（AA 研共同研究員，日本学術振興会特別研究員 PD／早稲田大学）

「複数言語環境における言語選択のプロセス：グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた質的分析を中心に」

グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）はとくに看護学の分野で発展し、定着している質的分析の手法ではあるが、他分野における質的分析にも使われるようになって久しい。本発表では、とくに複数言語環境における言語選択プロセスに関する研究において、GTA の適用可能性を具体的な事例から検討することを目指した。具体的には、まず前提となる GTA の種類や手法について整理・共有したうえで、報告者がウズベキスタンにおいて収集したデータを GTA のいくつかの手法で実際に分析したものを紹介した。この際に、研究対象の現実性を無条件に前提としていることから存在論的考察は対象とならないこと、また、よりミクロなレベルではコードスイッチングといった現象の観察と考察は対象とならないことを、GTA を用いた分析の限界点として指摘した。

発表後の質疑応答では、切片化の具体的な方法や QDA ソフトウェアを利用した分析に関する質問のほかに、語りの分析に入り込む分析者の主観などに関するコメントが寄せられた。

## 2. 山下里香 (AA 研共同研究員, 関東学院大学)

「言語景観から記号的景観へ：＜在外パキスタン人＞から考える」

日本において言語景観は、方言や移民言語、点字等を含めた「多言語化現象」として論じられ、言語の地位や活力を測るものとして、または少数派に対するサービスの観点から論じられてきた。これらは、景観に見られる言語が、象徴的に集団のアイデンティティに肯定的に寄与するという考え方 (Landry and Bourhis 1997) におおむね基づいている。方法論的には、量的研究として、特定地域の公共の標示に見られる使用言語の型を論じたものが多かった。一方、近年、特に海外では、「超多様性(superdiversity)」と捉えられる社会的状況において多言語使用を研究するにあたって、言語ないしコミュニケーションの構成要素と位置付けて何を分析対象とするか、また量的調査に限らず、質的調査 (特にエスノグラフィー) と組み合わせることが提唱されるようになった。本報告では、言語景観の研究の対象が言語以外への記号へと発展した経緯として、理論的な転回を簡潔に紹介した上で、現在報告者が収集と分析を行っている在外パキスタン人のエスニシティと継承語に関連する記号的景観データについて論じた。

## 3. 谷口ジョイ (AA 研共同研究員, 静岡理工科大学)

「複数言語環境にある子どものことばに対する質的手法」

本発表では、主に (1) 質的研究において、妥当性、信頼性の高い分析を行うための手法、及び (2) 量的手法と組み合わせることで質的研究が生きる技法、の 2 点について検討を加えた。前半では、質的手法に対する批判を踏まえた上で、どのような科学的手続きが必要となるのか、その概要をまとめた。一例を挙げると、量的研究における内的・外的妥当性に当たる **credibility** (信用性) や **transferability** (転用可能性) をどのように保証するのか、その具体的な手法について確認した。後半では、**falsification** (誤りであることの証明)、及び **Positive Deviance** (好ましい外れ値) という概念を用いて、量的研究においては考察の対象とならない「定説から逸脱した少数事例」を再評価する必要性について述べた。質疑応答では、質的研究が対象とするのは特定の事例なのか、あるいはその背後にある集団なのか、といった点について活発な議論が交わされた。

研究会には 15 名 (うち代表者・所員・共同研究員 11 名) の参加があり、盛況のうちに行われた。

以上  
(文責・安達真弓)